

KPEC news

Kitakyushu Prosperity Enrichment Council

Vol.61

2016.8.1

contents

- 01-02 「イノベーションフォーラム2015」開催
「ロボット時代の創造」講演会
- 03 産業人材育成フォーラム事業
- 04 もったいない総研の活動
- 05 小学校応援団 活動
- 06 1000人の夢寄金
- 07-08 北九州イノベーションギャラリー 活動紹介
- 09-10 公益財団法人 北九州活性化協議会
平成28年度事業計画とKPECの紹介

KPEC 公益財団法人 北九州活性化協議会



北九州イノベーションギャラリー

平成28年度 春の企画展 開催

「時を刻む～“かたち” になった人類の英知～」の開催

北九州イノベーションギャラリーで、春の企画展、「時を刻む～“かたち”になった人類の英知～」を4月23日(土)～7月3日(日)まで開催した。

目には見えない時を「時計」に仕上げるまで、人類は長い時間を経てきた。今回の企画展では古代の人々が作った時計から大航海時代のものまで数多くの展示品を並べた。

とくに注目展示は北九州初上陸の、

- ①からくり儀右衛門こと田中久重の最高傑作、万年時計(複製品)
- ②セイコーキュージアム秘蔵時計の数々
- ③時計の3Dトリックアートなど。

来展者は、先人の偉大な英知と時計の進化の歴史と、時計がもたらした社会的なイノベーションの歴史に触れていた。

「遊び心ある創造性」がイノベーションの原動力

— 北九州イノベーションギャラリーは次世代のイノベーターの育成を目指します —

北九州イノベーションギャラリー イノベーションフォーラム2015

「ロボット時代の創造」

2015年12月12日、北九州国際会議場にて、北九州市、北九州イノベーションギャラリー主催、北九州ロボットフォーラムの共催で「イノベーションフォーラム2015」が開催された。同フォーラムでは、株式会社ロボ・ガレージ代表取締役社長でロボットクリエイターの高橋智隆氏が「ロボット時代の創造」と題し、ロボット開発秘話、ものづくりへのこだわり、イノベーションを起こすために大切なこと、人間とロボットとの新しい関係など、示唆に富む講演をした。北九州市は、我が国をリードするロボット産業拠点の形成や介護ロボット実用化への取り組みを進めている。そうした環境の中で行われた同フォーラムは、北九州地域の確かな未来づくりへの新たな一步となった。講演の要旨を紹介する。

ロボットクリエイターという仕事

今、グーグル、アマゾン、マイクロソフトなどの世界中の巨大なIT企業たちが、莫大な資金と人材を投入してロボットを開発しています。これまで「専門家の研究対象」であったロボットが、いよいよ「商品」となり、人々の暮らしの身近なところで活躍する時代がやってきました。そうした中、私はロボットクリエイターとして、ロボットを考案し、設計・デザインして実際に作って発表する活動を行っています。私が作るロボットは、小型のヒューマノイドロボットと呼ばれる人型のロボットです。

例えば、「KIROBO」という世界初の会話できる宇宙飛行士ロボットを作りました。プロジェクトの発端は何気ない雑談。広告代理店の電通に務める友人と酒を飲みながら、「宇宙に行った人型ロボットはいないので、一番乗りになつたら面白いよね」という話で盛り上がりっていたら、次々に協力者が現れ、最終的にはトヨタ自動車、電通、東京大学先端科学技術研究センター、ロボ・ガレージによる共同研究プロジェクトとなり、宇宙航空研究開発機構の協力のもと、2013年夏、本当に宇宙へロボットを飛ばすことになったのです。KIROBOは、国際宇宙ステーション(ISS)内の起動と発声に成功しました。その第一声は人類初の月面着陸に成功した米宇宙船 アポロ11号のアームストロング船長の「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である」を参考にした「2013年8月21日、未来の希望へ、ロボットの第一歩です」というものです。さらに同年12月6日、KIROBOはISS内で若田宇宙飛行士との会話実験に成功しました。

テレビCM用のロボットも作りました。パナソニックのエボルタ乾電池の長持ちパワーを実証する「エボルタ」という小さなロボットです。2008年5月、2本の乾電池を動力に、グランドキャニオンの谷底から530mの頂上までロープを伝って登るという実験を行いました。強風や雨、ヒヨウが降るほどの悪天候に悩まましたが、6回目のチャレンジで登頂を果たしました。タイムは6時間46分。見事エボルタ乾電池の長もちパワーを実証することができました。このエボルタロボットは、スイッチを入れるとロープを伝ってよじ登っていきます。人間のように一生懸命に首を振りながら登っていますが、これは登るために何の役にも立ちません。滑車を使えば10分で登ることができるように6時間もかけてしまいます。しかし、えっちらおっちら登っているとテレビの前の皆さんが「小さいのに頑張っている」といって応援してくれるのです。そしてロボットのイメージが脳裏に焼きつき、電池を買う時は無意識のうちにエボルタ乾電池を選んでしまうという効果をもたらしました。

きっかけは鉄腕アトム

私がロボットづくりに興味を持つようになったのは、幼稚園の頃に「鉄腕アトム」の漫画を読んだことがきっかけでした。博士がロボットを作るシーンを見ながら「自分も将来はロボットを作る仕事に就きたい」と思っていました。大学は立命館大学の産業社会学部に進学しました。本当はものづくりが好きだったのですが、当時はバブル経済の時代で、理系の学部を卒業した人も銀行や証券会社など、給料の良いところに就職していました。

しかし、卒業する頃にはバブルがはじけ、あらためて自分の将来のことを真面目に考えた時、「やはり、ものづくりがしたい」と思うようになりました。そこでメーカーへの就職を希望したのですが最終面接で落ちてしまい、1年間予備校に通い、京都大学の工学部に入り直し自分自身にとってのものづくりへの興味の原点でもあるロボットの道に進むことにしました。



ロボットクリエイター 高橋 智隆 氏
1975年生まれ。2003年京都大学工学部卒業。株式会社ロボ・ガレージ代表取締役社長。東京大学先端科学技術研究センター特任准教授、大阪電気通信大学メディアコンピュータシステム学科客員教授、ヒューマニアカデミーロボット教室アドバイザー。

たった一人でロボットを作る理由

京都大学に入学直後は、ロボットに関する専門的な科目がなかったため、勝手に自分でロボットを作り始めました。模型屋さんで購入したガンダムのプラモデルの中にメカを仕込み、ガシャンガシャンと歩くおもちゃを作ったのです。作ってみると予想外にうまく歩くので、学内の特許相談室に持ち込んでみると「面白いから特許を出願して企業に売り込みに行こう」ということになり、めでたく商品化されることになりました。その後は学生を対象とした数々のベンチャーイベントに自作のロボットを携えて参加し、優勝賞金を開発費に充てるということを繰り返しました。

そして二度目の大学生活も卒業の時期が近づいてきた頃、京都大学が学内にインキュベーションというベンチャー向けの貸事務所を作ってくれるというので、その入居第1号として2003年にロボ・ガレージを一人で創業しました。ちなみに今でも私一人の会社です。また、私は東京大学先端科学技術研究センターの特任准教授として自分の研究室を持っていますが、そこにも学生や助手を入れず一人で研究を行っています。私がなぜ一人にこだわるのか。それは大勢で話し合いながらものを作ると無難なものが出来上がるからです。一人でやると誰も止める人がいないので、斬新なもの、とんがつ

たものが生まれます。大失敗することもあるけれど、大成功することもあります。実はそれこそがイノベーションを起こす上で大切なことです。特にロボットは新しい分野なので無難なものを作っても意味がありません。だから私は、基本的に一人で考え、一人でもものを作っています。その上で、必要に応じて色々な企業と手を組んで仕事をしているのです。

設計図無し! 手作りのロボット開発

先ほどご紹介したロボット以外にも、鉄腕アトムへのオマージュとなる作品で、漫画の中に登場するような外観のロボット「NEON」、NHKの小学生向け英語教育番組の主役として人間と一緒に演技するためにマスタースレーブ方式という操縦方法を採用した「GABB Y」、自律型ロボットの世界大会である「ロボカップ世界大会」5連覇を果たした「VisiON」、女性のしなやかなウォーキングやボディを再現し、ファッション誌の「ヴォーグ」の紙面を飾った女性型ロボット「FT」など、従来の発想を超えた斬新なロボットを次々に発表してきました。

実はこれらのロボットには設計図がありません。設計図は多くの人が関わる場合に情報共有をするためのツールとして必要になりますが、私は全部の工程を一人で行っているので要らないのです。また、設計図を描くと、コンピューターの基盤、部品、モーターを水平・垂直に配置し、オーソドックスな構造になります。私の場合は、外観デザインから部品の形状や寸法までスケッチを描きます。部品も自分で数十個の木型を削り、その上に熱して軟らかくしたプラスチックを押し当てて自作します。昆蟲のような骨皮一体型のモノコック構造に設計することによって、外装どうしがぶつかることもなく、運動性能とデザイン性の両立を可能にしているのです。

ロボットと暮らす未来とは

オリジナルのロボットを開発し発表し続けていると、商品化の話も舞い込んでいます。2013年にコミュニケーションロボット「ROBI」をデアゴスティーニ社から発売することになりました。このロボットは人感センサーや音声認識機能が搭載されており、人間と簡単な会話ができます。「自己紹介して」と話しかけると「僕、ロビ! お話ししながらいろんなことができるんだ」と答えます。会話機能の他にもテレビリモコン操作の代行や目覚まし時計の機能も併せ持っています。お役立ちロボットかというと、実はそうでもありません。テレビのリモコン操作は自分でやった方がよっぽど早いですし、バッテリーは1時間もたないので目覚まし時計としてはほぼ使えません。しかしながら、国内で10万台以上売れました。なぜでしょう。それは、人とロボットを介して身の回りの機械とコミュニケーションする、そのような未来を一足先に体感できる商品だからです。私は今後、ロボットを介して家電製品やホームセキュリティなどが動き、買物の情報などが手に入るような時代がやってくると考えています。

ところが、私たちはすでに身の回りの色々な機械とコミュニケーションできる便利なツールを持っています。それはスマートフォンです。すると、ロボットは必要ないのではと思ってしまうわけなのですが、現在、スマートフォンの成長は頭打ちになり、世界中が「スマートフォンの次」を探しています。メガネ型や腕時計型などが試されていますが、スマートフォンを凌駕するほどのものには



なっていません。スマートフォンが成功した理由は、直感的な操作を可能にしたタッチパネルとモーションセンサーにありました。次世代のインターフェイスとして期待された音声認識機能ですが、その性能がどれほど賢くなあっても私たちは日常的にほとんど使っていません。一方、我々は家で飼っている金魚や亀には話しかけています。つまり私たちは、声をかけている相手が賢いかどうかではなく、そこに命を感じられたら声をかけるのです。

そこで私は、スマートフォンと人のカタチをした小さなロボットを合体させたものがスマートフォンを超える端末になるのではないかと考え、本当に作ってしまいました。ロボット型携帯電話「ロボホン」です。胸ポケットに入るサイズの小さなロボットです。実際に電話をかけてみると、着信音が鳴ったあと、「電話だよ!」と声を出して持ち主に着信があったことを知らせます。このロボホンは電話をしたり、会話をしたり、写真を撮ったり、メールを送ったり、地図を見たり、動画を見たり、いろいろなことができます。実はこのロボットは、2016年に発売されることが決定しています。今までロボット専門店でしか売っていないかったロボットが携帯電話ショップで買うことができる時代になったのです。

迷ったらユニークな選択肢を選ぼう

ロボットを作っていく上で大切なこと、イノベーションを起こす上で大切なこと、それは「遊び心」です。これまで人類は、何かしらの問題や不便を発見し、それを解決するものを作るという方向で発明を繰り返していました。例えば、「冷たい水で洗濯物をしているお母さんかわいそうだから全自動洗濯機を作ろう」というような話です。ところがそのようなものは、ほぼ一通り作られました。一方で、新しい産業は「遊び」の中から生まれています。例えばユーチューブやツイッター、フェイスブックは、人や機械がやっている作業を代行するために生まれたものではなく、誰かが考えた遊びがインターネット上で支持され、普及したことによって後から用途が生まれたものなのです。

したがって、これからの時代にイノベーションを起こす上では、面白いものを考えることが大切になります。今すぐ役に立つものを作ることを考えると、今すぐお金が儲かりそうなことを考えるのではなく、自分の好奇心に従って面白いものを作ることが大事です。実際に手を動かしものを作ってみましょう。手を動かし試行錯誤することで発明は進化していきます。そして、迷った時にはユニークな選択肢を選んでみてください。人は目の前に選択肢がある場合、どうしても無難な方を選びたがります。例えば、同じ値段の中古のアメリカ車と無難な国産の新車、どちらを買おうか友人に相談すると、他人事だと思ってアメ車を勧めてくるはずです。しかし、自分の車となるとその友人は国産車を選ぶでしょう。変なアメ車を買えばトラブル続出でひどい目にあうかもかもしれません。しかし、その故障を直すために部品を海外から取り寄せたり、自分で修理したり、同じ車に乗る愛好者の人たちの集まりに参加して情報交換をしたり、色々な経験することができます。結果的にそれがすべて自分の糧になります。ですから迷った時には、ぜひユニークな選択肢を選んでください。きっと色々と面白い出来事が起きるはずです。その遊び心がイノベーションへつながるのです。私も今後、忙しくも楽しみながら、イノベイティブなロボットを作り続けていきたいと思っています。

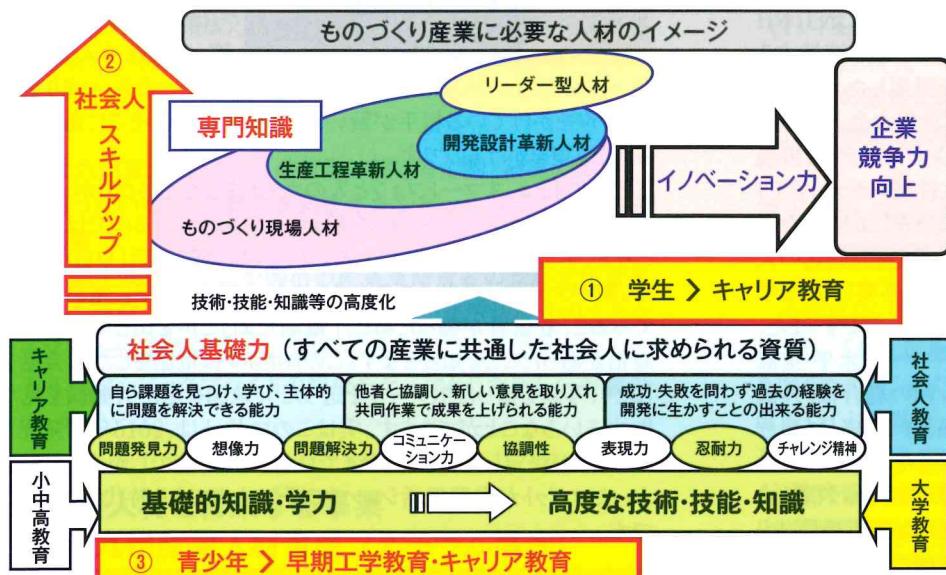


産業人材育成フォーラム事業

5年を経過し中間レビューを実施、事業の方向性を確認！

平成23年5月に産学官協働で発足させた「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、「地域連携型インターンシップ」を中心に、中小企業の中核技術者のリカレント教育プログラムである「北九州テクニカルカレッジ事業」や、早期工学教育の環境づくりを目指す「青少年育成プログラム」など、青少年から経営管理者までを対象にした、地域協働型の産業人材育成の仕組み作りを推進している。

産業人材育成フォーラム事業のフィールド



■地域連携型インターンシップのビジネスモデル充実

◎研修型インターンシップの実施

◇対象企業:中堅・中小企業234社 /実施企業数:141社

◇インターンシップ事実状況

	H28年度		H27年度		H26年度		H25年度	
	目標	参加	登録	参加	登録	参加	登録	
参加校	5校	5校	5校	5校	5校	4校	4校	
参加企業	120社	67社	95社	82社	92社	73社	80社	
参加学生	200人	118人	146人	137人	187人	122人	164人	

◇地域連携型インターンシップの地元就職誘発効果

		H25/3月卒 H26/3月卒 H27/3月卒 H28/3月卒 4年間合計					
		H25/3月卒	H26/3月卒	H27/3月卒	H28/3月卒	4年間合計	
インターンシップ 参加学生の 地元就職状況	地元就職者数 (IS参加学生数)	9人 (28人)	11人 (61人)	20人 (79人)	17人 (95人)	57人 (263人)	
	地元就職率	32.1%	18.0%	25.3%	17.9%	21.7%	
連携大学全体の 地元就職状況	地元就職数	89人	178人	119人	160人	546人	
	就職者合計	836人	1,159人	1,210人	1,180人	4,385人	
	地元就職率	10.6%	15.4%	9.9%	13.6%	11.7%	

◎インターンシップセミナーを連携大学各校で実施

インターンシップが実践型教育システムとして位置づけられ、学生の参加意向が増大！

連携校	九工大	北九大	西工大	高専
参加学生数	245名	97名	260名	205名



◎インターンシップミーティング会場を西工大に移して実施

インターンシップに対する学生の不安解消のための事前相談を目的に、連携校合同インターンシップミーティングを西工大小倉キャンパス、北九大ひびき野キャンパスで実施。

学生の感想は、「大学生のうちにすべきことが明白になった/自分の興味あることが分った/就職に対してあまい考え方をしている自分を見ついた./大企業とは違う中小でこそ求められる幅広い力があることが分かった」など。



場所	開催日	学生数	企業数	参加大学
北九大	H28.6.8	24名	9社	北九大・九工大・早稲田
西工大	H27.6.11	51名	15社	九工大・西工大・高専

◎インターンシップ実践セミナー

インターンシップの実施に当たって、企業にとってのメリットの創出と、経営的活用について、有志企業による勉強会を開催し、その成果報告会として「インターンシップ実践セミナーを開催。



インターンシップの実践事例を踏まえて、連携校の学生も参加し、経営戦略としてメリットのあるインターンシップの在り方を考えた。「地域連携型インターンシップガイドCD-ROM」の配布も行った。

(地域連携型インターンシップ事例発表)

* インターンシップが採用に繋がった事例

: 濱田重工(株)人事グループ長 志賀 健一 氏

* 課題を持ったインターンシップの事例

: (株)ウチダ 取締役統括部長 大原 大平 氏

* 地域貢献としてのインターンシップ事例

: 計測検査(株)代表取締役 坂本 敏弘 氏

* ICT系人材育成のインターンシップ事例

: (株)ランティックソフトウェア代表取締役 庄司 裕一 氏

青少年育成プログラム事業が進展

-北九州市のものづくり教育の実態確認-

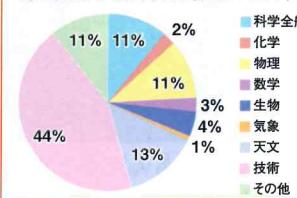
工業都市-北九州ならではの産学連携による早期工学教育システムの開発を目指す「青少年育成プログラム」事業は、先進事例及び北九州地域の環境調査を終え、事業の方向性を確認。

◎北九州市内で科学・工学分野に関係する機関・施設の関連事業等の取り組み状況

北九州市内の科学・工学分野に関係する機関等を対象に、事業実施状況を調査し、分野別分類を実施。

H26年度の理工系事業の開催件数は、全施設で112件。分野別分類は以下の通り。

分野別事業件数(全112件)



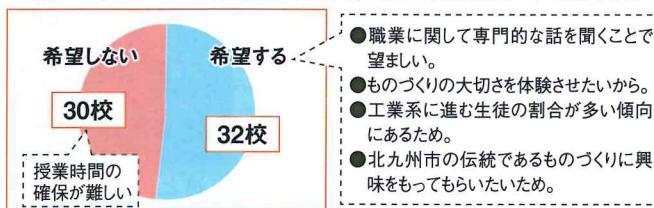
年齢層別件数(全112件)



◎北九州市内中学校でのものづくり教育実施状況

市内小中学校における早期工学教育の実施状況及び地域のモノづくり企業における早期工学教育の実施状況及び取り組みについての調査を実施。

■工業系ものづくり企業による出前授業(講演会)の希望状況



■北九州市内工業系ものづくり企業での学校教育への取組み状況

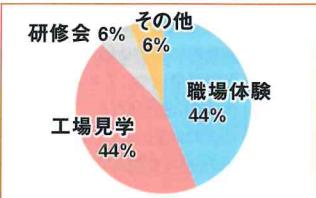
*調査対象:北九州市内のものづくり企業116社(回答29社:回収率25%)

実施しているは52%、取り組んでいない企業の理由は、実施環境が整っていないが67%。内容は、職場体験、工場見学が中心。取り組みの意義は地域・社会貢献40%、経営的意義も40%。

○ものづくり教育の意義



○具体的な取り組み内容



◎小学校理科教育スタンダードへの記載(H27年4月以降)

北九州市の小学校の教育スタンダード(5年生 理科「天気と情報」)に藤田哲也博士が採択される。(スタンダード抜粋)

「道徳の『心理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をより良くする』と関連して、台風、大雨、竜巻などの自然災害について指導する際に、北九州の気象学者で、竜巻の仕組みについて研究した藤田哲也博士の功績に触れ、それを通じて科学的な探究心と共に、物事を合理的に考え、心理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をより良くすることが出来るように支援する。」

「もったいない総研」の活動

「もったいない総研」は、世界遺産に登録された産業・文化遺産にとどまらず、北九州市(都市)を構成する産業、文化、社会、生活、市民の中にある様々な“価値あるモノ”を、シビックプライドのコンテンツという新しい概念で捉え、その継承と活用を推進していく事業化の検討を行った。

1. 「もったいない総研」の再構築事業

シビックプライドの考え方に基づき、「北九州市民財産」(仮称)を、「市民が、市民の評価による、市民のための都市資産を選定する財産」と位置付け、その活用によってまちづくりの推進を行う環境の開発を行った。

(1) 「新もったいない総研」事業の枠組みと方向性を検討する「KPEC事業開発研究会」の開催

開催時期 (平成27年6月、9月、10月、12月)

『北九州市民財産』(仮称)活用によるまちづくり事業の構想を企画・立案し、「平成28年度事業計画」に反映し実施計画書として道筋をつけた。

(2) 「新もったいない総研」事業に相応しい社会的意義を確立するために有識者との意見交換会の実施

平成27年10月20日に開催した。「北九州市民財産」は、都市づくり、街づくりにつながっていく、もったいない思想に基づく新しい都市資源概念である。この概念をもとに、北九州市の産業・文化・歴史に関する地元の有識者の貴重な意見を参考にして新事業の企画・構想設計を行った。

2. 環境未来都市構築支援事業

(1) えこっパーのブランディングの向上

環境首都を目指す北九州市のエコマインドの普及、啓蒙のツールとして開発した「北九州紙えこっパー」に、環境プロモーションキャラクターの「ていたん」を印刷した「ていたんプリントえこっパー」を作成し、市内公共施設等のトイレを中心に設置を進めた。

(2) 「えこっパー」を通じた環境教育の実施

「小学校応

援団」事業と

連携し、「全国牛乳パック協会」によるリサイクル環境教育の出前授業等を実施。



北九州の企業人による小学校応援団の活動

小学校応援団は、平成24年度から支援事業を開始し、平成27年度は児童への出前授業、教職員・保護者への研修については、支援対象小学校70校に対して134件（平成26年度：支援対象小学校40校・114件）を実施した。

■主な実施テーマ等の状況

区分	ジャンル	テーマ	企業・団体名	件数
環境		地域の環境を考える小学生石けん教室	シャボン玉石けん㈱	5
		ごみをしけんにかえるしくみ	新日鉄住金エンジニアリング㈱	4
		けんこうなくらしと水のかかわり	TOTO㈱	4
		どんぐりの森づくり	TOTO㈱	3
道徳		環境や生態系について	タカミヤ・マリバー環境保護財団	2
		ごみのリサイクル	光進工業㈱	1
		ルール、マナー、言葉づかい	㈱ケイ・ピー・エス	9
		大型紙芝居による情操教育	㈱SP-Link	8
出前授業		高齢者の疑似体験を通じて高齢者や高齢社会について考える	社会福祉法人 年長者の里	2
		住み良いまちづくり	㈱ゼンリン	6
		社会のお金の流れと銀行の役割	㈱福岡銀行	3
		グローバルな視点の養成	㈱かば田食品	1
社会職業		レゴブロックを使った設計体験	新日鉄住金エンジニアリング㈱、NSプラント設計㈱	4
		バティシエの仕事	㈲うのとり	2
		郷土が生んだ偉人・藤田博士の業績を学ぶ	藤田記念会	1
		安全(出張教室)	西部ガス㈱	1
生活・趣味		食育で伸ばす心(親子料理講習会)	㈱千草、司厨士協会	1
		走り方教室	北実会、(株)九電工、(株)安川電機	37
		(憧れの職業紹介) ゲームクリエーター(麻生情報ビジネス専門学校)、サッカー選手(㈱ギラヴァンツ北九州)、図書館司書(八幡図書館)、保育士(北九州市保育士会)		4
		(憧れの職業紹介) 看護師(西日本看護専門学校)、ゲームクリエーター(KCS北九州情報専門学校)、サッカー選手(㈱ギラヴァンツ北九州)、バティシエ(大原医療福祉製菓専門学校)		4
教職員研修		お客様対応	TOTO㈱	8
		接遇、ビジネスマナー、電話応対、クレーム対応	㈱ケイ・ピー・エス	7
		安川電機の人材育成について	㈱安川電機	1
保護者研修		子どもを算数好きにする	家庭教育力研究所	2
		子どもが伸びるコーチング	㈲コリード	1
		食育で伸ばす心(親子料理講習会)	㈱千草、司厨士協会	1

教職員研修 安川電機の人材育成について

(株)安川電機



〈小倉北区校長会自主研修〉

●学校現場にも共通する内容や企業独自の内容など、参考になる部分が多くあった。特に、職場で実務に携わりながら業務に必要な知識や技術を習得させるOJT(OJT)は、学校においても人材開発の必要不可欠な方策である。企業では、このOJTが目標管理と連動しており、我々教育現場においても再認識する必要があると感じた。「若手を育てる」という大きな命題は、企業も学校も同じである。それぞれが独自の環境や方針を掲げる中で、様々な角度から、自らの実践を見直すよい機会となった。

出前授業 あこがれの職業

最初に児童全員一緒に4つの職業(左表参照)の講師からそれぞれ簡単な説明を受け、その後グループに分かれて、自分が聞きたい職業の講師のところに行った。

講師全員の話を聞いて

〈児童の感想〉

●人を助ける仕事、人をしあわせにする仕事、人をかげて支える仕事、人に勇気をあたえる仕事。たくさんの職業の中から自分が好きな仕事をしている人たち。そのひとたちは力強い目をしていて、自分の仕事に誇りと自信をいだいているんだなと思った。みんなの話をしっかり聞いて、自分をふりかえり、人の気持ちを考えて今日来てくださった人たちのいいところをまねてがんばろうと思った。



看護師

〈児童の感想〉

●私が心に残った言葉は「看護師になるのに大切なことは何ですか」という質問があったときの答で、「正直でいることと、自分の言葉や行動で相手がどんな気持ちになるかを考えることです。」という言葉です。この言葉を聞いて友達と接するときも言葉、行動に気をつけ、正直でいようと思いました。



●「人の気持ちを考えられない人には看護師にはなれない。」そう言っていた看護師さんにはきっと自分が看護師という自信と誇りとプライドがあるんだろうなと思った。私も将来自分の職に自信、誇り、プライドをもってやりたいと思った。

出前授業 ルール、マナー、言葉づかい

(株)ケイ・ピー・エス



〈児童の感想〉

●大きな声でいいさつをした。声を出すことは前向きな気持ちをつくり出す。やってみて本当にそうだと思った。何事にもやる気を出して、意欲的に取り組むために、いいさつは大事だ。

●今回のマナー講座を受けて、自分はだらしないなあと思った。言葉づかいや姿勢など気をつけていきたい。これからは社会のルールを守っていい大人になれるようにがんばります。

●態度が悪いといろいろな人の迷惑になることが分かった。私も少し思い当たることがあったので、正しく直して、人の迷惑にならないようになりたい。

北九州の企業の皆様方の小学校応援団へのご参加をお待ちしています。

このまちの教育・文化を私たちの手で 1000人の夢寄金

平成24年9月18日市民の都市格(教育力・文化力)向上を目的とし活動をスタートした1000人の夢寄金事業も4年目を迎え、寄付事業および助成金事業を拡充してきた。寄付事業については1口3,000円を基本とした寄付募集を継続しているが、会員数については平成25年からほぼ横ばいのため、新たな方法として小規模なチームによる寄付金募集活動を検討している。また、助成事業については平成26年度から年1回(助成事業募集:7月、助成事業実施期間:10月から翌年9月まで)とし、内容の充実につとめている。

■寄付事業

・寄付金募集

昨年は平成27年4月から平成28年3月までの期間で125件、合計583,000円のご寄付をいただいた。平成24年10月、寄金開始からの3年間の寄付累計件数440件、累計金額6,347,053円に達した。昨年度も1口3,000円の基本寄付を中心に寄付活動を推進した。金額的にはやや減少しているが、いくつかの事業を翌年度に持ち越したためで、今年度も予定通り助成実施見込みである。

・寄付金イベント

第3回1000人の夢寄金・チャリティーゴルフコンペを開催

開催日: 平成28年6月7日(火)

場所: 九州ゴルフ倶楽部八幡コース

昨年11月開催予定が延期となり、初の夏季開催となった。コンペは過去最高の99名の方々が参加され、梅雨時にも関わらず薄日も射す天候となり、気持ちの良いプレーで大会を盛り上げていただいた。当日の欠席者1名様及びチャリティーの趣旨に賛同する2名様からも直接寄付をいただき、最終的には102名の皆様から総額306,000円をご寄付いただいた。お陰様でこのチャリティーゴルフコンペも1000人の夢寄金定例事業として定着してきた。



■第4回助成先の決定(平成27年10月1日)

・対象活動期間 平成27年10月1日から平成28年9月30日

・応募総数 17件 (過去最高件数) ・助成先 7件 (助成金額合計 1,500,000円)

<第4回助成先>

助成先団体名	事業名	事業概要
NPO法人子ども未来	重度の発達障害児童に対する放課後デイサービス事業の実施	重度障害児童及び保護者に対し児童福祉法に基づく放課後デイサービス事業を行い、平等なサービスと支援を提供する。
劇団「青春座」	創立70周年記念事業	北九州を題材にした公演を永年継続している地元に密着した劇団。創立70周年記念事業として北九州の教育の再興に生涯を捧げた杉山貞(ただす)の執念を描く。
一般社団法人 小倉織(申請時:遊生染織工房)	デザインの祭典 イタリアミラノサローネ参加	古い美術館を使った世界規模でのデザインの祭典に参加し、北九州発の小倉織の魅力を世界に紹介する事業活動。
(公社)誕生学協会	小中高校生を対象にいのちの大切さを教える出前授業	授業カリキュラムの一環として出前授業を実施。自己肯定感を高め、自殺や若年層の人工妊娠中絶等の減少に寄与する活動。
北九州しねま研究会	第5回北九州市民映画祭開催	若い世代に日本映画の素晴らしさを伝え、映画観賞者の裾野を広げる活動。市民民主導型の映画文化振興を企画・実施。
Golden Brass Japan Festival 実行委員会	Golden Brass Japan Festival at Port of Moji 2016	国内トップクラスの管楽器奏者によるセミナーと講演。市内中学校等に出前講義を実施。有望な若手管楽器奏者の発掘を図る。
ひびきの親子あそび研究会	市民が集い市民と学ぶ地域と学び育つ未来の学び舎計画	若松ひびきの地域で主に乳幼児親子を対象とする幅広い子育て支援活動を実施。地域に根ざした多様で積極的な活動を実施中。

■寄付のお願い

1000人の夢寄金事業の趣旨及び寄付状況等をホームページ、facebookでお知らせしています。

夢寄金ホームページURL (<http://www.kpec.or.jp/yume>)

夢寄金facebook URL (<http://www.facebook.com/kpecyume>)

今後とも皆様のご支援をお願いいたします。

■助成金についてのお知らせ

平成26年度から当分の間、助成金募集を年1回とさせていただきます。

助成募集期間 7月1日～31日

事業対象期間 10月1日～翌年9月30日

北九州イノベーションギャラリー事業紹介

1. 企画展示に関する事業

世界文化遺産の登録応援及び登録記念展を開催するとともに、イノベーションに関連した以下の企画展及び特別展を開催した。

春企画展	世界文化遺産登録応援展 「東田ものがたり」
夏秋企画展	世界文化遺産登録記念展 「八幡鐵ものがたり」
冬企画展	2015年度 グッドデザイン賞 in 北九州
冬同時開催展	世界遺産登録記念デザイングッズ 2015コレクション
特別展	八幡製鐵所から拡がる北州市の 近代化産業遺産
特別展	北州市発展の基盤となった 交通・土木及び文化遺産



2. 教育普及に関する事業

(1) イノベーションフォーラムの開催

次世代のイノベーションを担う人材育成、特に理工系人材の育成目的に即して、ロボット開発という切り口で開催し、参加者数は過去最高の586名となった。

【基調講演】

テーマ：「ロボット時代の創造」

講師：高橋 智隆／(株)ロボ・ガレージ代表取締役社長
東京大学先端研特任准教授、大阪電気通信大学
客員教授

【パネルディスカッション】

- ・高橋 智隆
- ・善甫 英治／(公財)北九州産業学術推進機構ロボット技術センター長
- ・高本 陽一／(株)テムザック 代表取締役
- ・神野 佳彦／ヒューマンアカデミー(株)チーフマネージャー
- ・石井 和男／九州工業大学大学院教授

(2) 技術革新セミナーの開催

交通をテーマにした講座を2回開催した。

①トヨタの環境技術戦略と燃料電池自動車MIRAIの開発

田中 義和／トヨタ自動車(株) MIRAI開発責任者

②超電導リニア開発と中央新幹線

北野 淳一／東海旅客鉄道(株) 中央新幹線推進本部



(3) デザインセミナー&フェアの開催

① 北Qデザインクリエーション

【講演会】

「タウンビジネスの視点から見た地域活性化事業」
佐藤皓嗣／(有)日智 代表取締役

【パネルディスカッション】

「ビジネスにおけるデザインの有効活用について」
KDA(重松・山根・河村)

② 北九州ゆめみらいワーク

「オリジナル手描きイラストネームプレート」

③ 「フォトスタンドにかざろう！」

「アクリル絵の具でコラージュアート」

高島 一公／絵画講師・グラフィックデザイナー

④ 北九州MONO CAFE2015出展

「メタルネームプレート」



(4) 世界文化遺産関連

① 企画展連動講演会

ア「製鉄の歴史と官営八幡製鐵所」

菅 和彦／日鉄住金ビジネスサービス八幡(株)
総務部部長

イ「明治日本の産業遺産から見る地域の魅力的な資源」

市原 猛志／産業考古学会理事

ウ「近代化産業遺産の魅力～まちをあるく、探す、

「地元」を見つける～」

市原 猛志／産業考古学会理事



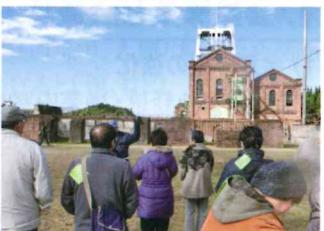
②市民セミナー

- ア「今回登録の我国の世界遺産～見どころ&よもやま話～」
- イ「日本の世界遺産を巡って～おすすめポイント&豆知識～」
- ウ「世界遺産ワールドワイド～一度旅したい！憧れの名所～」

西森 正明／NPO法人世界遺産アカデミー認定講師

③見学ツアー

- ア「世界遺産登録記念～官営八幡製鐵所旧本事務所と市内産業遺産見学ツアー～」
旧本事務所眺望デッキ、遠賀川水源地ポンプ室、九州鉄道茶屋町橋梁跡、鉱滓線トンネル、河内貯水池堰堤、KIGS企画展 解説：市原猛志／産業考古学会理事
- イ「萩城下町と反射炉・松下村塾を巡るツアー」
萩博物館、萩反射炉、松陰神社、松下村塾
解説：廣崎 篤男／北九州市の文化財を守る会会長
- ウ「三池万田坑と三重津海軍所跡を巡るツアー」
三池万田坑、三重津海軍所跡
解説：市原 猛志／産業考古学会理事



④企画展連動イベント

- かみしばい「せいでつしょのはじまり」をプレゼンテーション
スタジオやイオンモール八幡東で開催した。
主宰／読み聞かせボランティア すぎのこ



(5)その他

市民講座、たたら製鉄、各種工作教室などの主催事業、東田サマースクールや世界一行きたい科学広場などの東田3館が連携したワークショップなども積極的に開催した。

3. 調査研究に関する事業

産業技術の保存と次世代への継承を目的として、国立科学博物館、技術士会などと連携し、自主調査研究を行うとともに共同研究や委託研究を行った。

- ①「北九州における高温・高圧バルブ技術の歴史と発展」
岡野バルブ製造（株）に委託し、報告書作成。

- ②「北九州における鋳造技術の歴史と発展」

日本技術士会九州本部及び九州工業大学教授に委託し、報告書作成。

- ③「コークス技術」

国立科学博物館と共同研究し、報告書作成。

- ④「北九州・日本・世界の産業技術史」

日本技術士会九州本部に委託し、報告書作成。

- ⑤「時と時計の歴史」

当館調査研究員が実施し、図録作成。

4. 映像・図書収集及び公開に関する事業

企画展と連動する図書、イノベーション・産業技術・デザインに関する図書の他、社史を積極的に収集すると共に、イノベーションに関する映像を制作した。

- ①図書の購入数

1,436冊（書籍1,027冊、古書104冊、雑誌305冊）

- ②映像の製作

岡野商会（現・岡野バルブ製造株）によるバルブ国産化、革新的バルブ開発を取り上げ、一般市民にも分かり易い技術革新物語として「発電プラントの動脈を操る～高温・高圧バルブの開発物語～」（24分）を制作した。

5. 図録販売中

昨年世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所の成り立ち等を写真やイラストで分かりやすく紹介した図録を1,000円で販売中。



公益財団法人 北九州活性化協議会 平成28年度事業計画

公益目的事業

1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 (もったいない総研事業)

KPECの創立10周年事業として創設した「もったいない総研」の運営理念を踏まえた地域活性化事業の企画、開発及び事業化を行う。本年度は新規事業の事業化に向けた環境づくりを行う。

- 1) 「北九州紙えこっパー」の普及に関する企画・研究の実施
- 2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業

地方創生戦略の推進や明治の産業革命遺産の世界文化遺産登録等を契機に、シビックプライドの醸成が地域活性化の大きなテーマとなってきた。

本年度はシビックプライドの醸成をテーマとした新しい事業の企画・研究を行う。

2. 産業人材を育成する事業 (北九州産業人材育成フォーラム事業)

北九州地域の中堅・中小企業の経営力強化と雇用環境の改善を図り、产学協働による産業人材の育成を目的として、青少年から社会人に至る産業人材育成の地域システム創りと、その持続的発展の仕組み創りを進める。

- 1) 高度人材育成プログラムの企画、運営
- 2) 社会人育成プログラムの企画、運営
- 3) 青少年育成プログラム事業の企画、運営
- 4) 産業人材育成の地域クラスター形成の環境整備

3. 次世代を担う人材を育成する事業 (北九州の企業人による小学校応援団事業)

北九州市内の企業や経済団体が結束して、将来を担う子どもたちの健全育成を目指し児童、教員および保護者を対象に、学習支援（出前授業、見学受け入れ）、研修支援（講師派遣、体験研修受け入れ）、PTA活動支援などの教育支援に取り組む。

- 1) 支援事業の推進
 - (1) 支援対象校の拡大

支援対象校を70校（27年度）から100校に拡大
 - (2) 管理体制の強化

4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 (1000人の夢寄金事業)

教育と文化を、都市格（都市の品格）を高める重要な基本要素と考え、真に魅力あるまちづくりを進めて行くために、教育や文化的活動を行う法人・個人・団体に対して活動費用を助成する「1000人の夢寄金」（以下、夢寄金）事業を推進する。

- 1) 「1000人の夢寄金」募金事業
- 2) 「1000人の夢寄金」助成事業
- 3) 広報・プロモーション事業の実施

5. まちづくり推進事業

- 1) まちの活性化推進事業
 - (1) 「KPEC事業開発研究会」による新しい活動分野の調査・研究
- 2) まちの活性化に関する情報発信事業
 - (1) 情報受発信の強化

6. 北九州イノベーションギャラリー 指定管理者事業

今年度は、第三期指定管理期間（H27年～H32年）の2年目に当たり、「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」等との連携を図りながら、新たにものづくり教育・技能教育分野の拡充等の環境づくりを進め、北九州市及びKPECをはじめとした地域関連機関との産学官連携による事業の円滑な推進を図る。

- 1) 教育普及に関する事業の企画、運営
- 2) 調査研究に関する事業の企画、運営
- 3) 企画展示に関する事業の企画、運営
- 4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営

法人運営業務

1. 会員募集と会員サービスの向上

- 1) 会員募集の強化

当協議会の経緯・事業内容を纏めた『KPECパンフレット』を活用して、賛助会員募集を行い、財務面、運営面双方の経営体质強化を図る。
- 2) 会員サービスの向上

会員管理体制の整備により、KPECが実施または支援する各種地域活性化事業への案内、及び行政や他団からの講演会開催等の情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

2. 寄付金事業の検討

「公益財団法人」としての税法上優遇措置の強みを活かし、1000人の夢寄金をはじめ、各事業への指定寄付等を含め、KPECが公益寄付の受け皿となる寄付金事業の創設についての検討を行う。

3. 組織運営体制の強化

4. 地域連携促進事業

- 1) 「スポーツ振興チケット」事業の継続実施

北九州活性化協議会(KPEC)の概要 ~KPECとは~

理念

公益財団法人北九州活性化協議会（通称KPEC）は、市民の声、若い世代の力、大学、企業、経済団体の英知と活動力を一つにまとめ、連携軸としての役割を担い、行政及び関係団体と共に、北九州市の確かな未来づくりに向かって行動する団体です。

設立の経緯

KPECは、昭和60年代初め、鉄冷え不況などにより沈滞化した北九州市を活性化しようと、米ピッツバーグ市の先例に学び、北九州経済4団体（北九州商工会議所、西日本工業倶楽部、北九州青年会議所、北九州青年経営者会議）を母体に998名による企業・団体や市民の賛同と協力のもと設立された公益法人です。

KPECの役割と機能

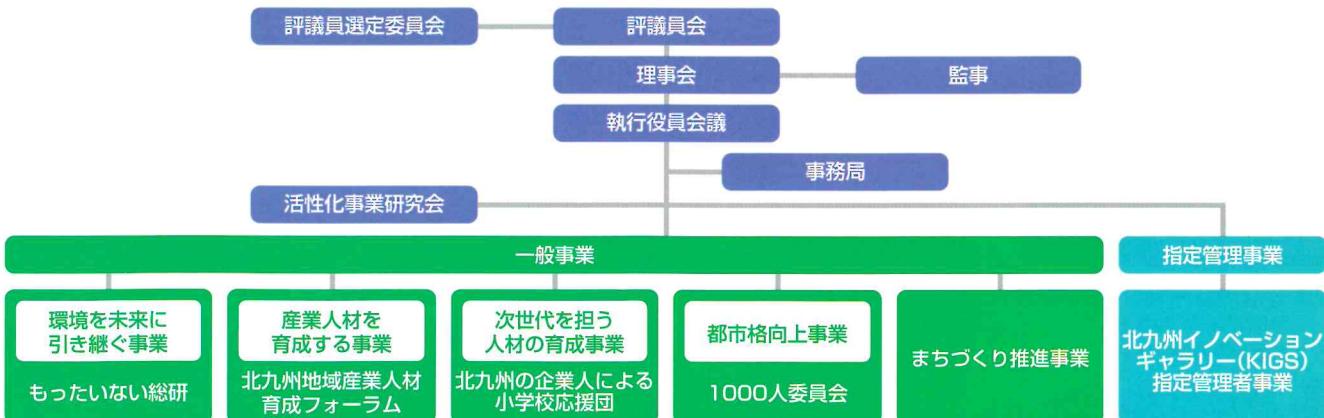


KPEC事業の活動において過去、自立した事業

- 「新北九州空港推進協議会」設立
およびシンポジウム、セミナー開催
 - 「北九州イノベーションギャラリー（産業技術保存継承センター）」
実行プラン提案と建設支援
 - 「北九州福祉サービス株式会社」設立
 - 「福祉用具研究開発センター」設立
 - 「シニアネット北九州」の設立
 - 「北九州紙えこっパー（リサイクルトイレットペーパー）」
開発・展開
 - 「北九州ミュージックプロムナード」開催



KPECの組織体系図



いっしょに楽しむ

Digital WonderLand

デジタル
ワンダーランド

国際コンテスト*でグランプリ受賞!

あの「KAGURA」がやってくる!!

こどもも大人も一緒に、

五感と体を使って楽しく遊んで学べる、
おもしろデジタルコンテンツがいっぱい☆

*Intel® Perceptual Computing Challenge 2013

2016
Part I 7.23 土 → 9.4 日

新たなシーンやアイテムで遊べるパートIIもお楽しみに!

Part II 9.6 火 → 10.10 月・祝

北九州イノベーションギャラリー

企画展示ギャラリー 福岡県北九州市八幡東区東田 2-2-11

開館時間 ▶ 9:00 ~ 19:00 土・日・祝日・7月23日~8月31日の月曜は17:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

休館日 ▶ 毎週月曜日 (7月23日~8月31日までは無休。9月以降、月曜日が祝日の場合は翌日)

観覧料 ▶ 一般 : 500円 小・中学生 : 250円 ※子ども文化パスポート対象事業
団体30名以上は2割引、障害者割引有り

■主催/北九州市、北九州イノベーションギャラリー

■後援/福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、
北九州商工会議所、JR九州、西鉄バス北九州(株)

■企画制作/(株)しきみデザイン



北九州イノベーションギャラリー

<http://www.kigs.jp/>
tel:093-663-5411



公式Facebookページに
いいねをお願いします。

ふれる
あそぶ
まなぶ



変わる



奏でる



描く



動く



KIGS
北九州イノベーションギャラリー
産業技術保存基盤センター
KITAKYUSHU INNOVATION GALLERY & STUDIO
指定管理者 公益財団法人北九州活性化協議会